

活躍する卒業生 | Active graduates

佐藤 駿 | さとう・しゅん

株式会社 LIXIL LWT Japan 水栓事業部 水栓開発部 商品開発5G



佐藤 駿

2012年度
大学院工学科学研究科
博士前期課程
先端ファイブ科学専攻 修了



Fig.1——工作中的佐藤さん



Fig.2——学位記授与式にて、研究室の指導教員およびメンバーと

大学時代の思い出、今役に立っている経験

中高生の頃から「将来はモノづくりに携わる仕事がしたい」と漠然と思い描いていました。さまざまな大学を見学する中で、理系教育に定評があり、メーカー系企業で活躍する先輩が数多くいる本学に惹かれました。「ここなら多様な選択肢が得られ、自分の行きたい企業にきっと出会える」と考え、入学を決めました。

学部から大学院へと進むなかでは、「繊維強化プラスチックの耐久性」をテーマとした研究に打ち込みました。研究室の先生方は非常に親身で、研究の基本から丁寧に指導してくださり、些細な疑問や相談にもじっくり向き合ってくださいました。また、企業の方や社会人ドクターの方々も在籍しており、「研究が社会でどう生かされるのか」「実社会で利益を生み出すにはどうすべきか」といった視点を学生時代から学べたことは大きな財産です。そして、仲間と時間を忘れて実験や論文執筆に没頭した日々は、最高に充実した思い出です。

国内外の学会にも数多く参加させていただきました。大きな舞台上で発表し、専門家からの鋭い指摘や質問に論理的に答える訓練を積んだ経験は、現在の仕事における会議やレビューの場でも生きています。とくに国際学会に参加し、英語での論文作成から発表までをやり遂げたことは大きな自信につながりました。さらに、韓国のヨナム大学での1か月間の短期留学では、海外生活を体験するとともに、現地の学生の研究に対する熱量を肌で感じる事ができ、視野が大きく広がりました。

本学は、先生方のサポートのもと、自ら望めばいくらでも挑戦の場を与えてくれる環境です。ここで培った経験と学びが、今の私のキャリアを力強く支えてくれていると感じます。

現在の仕事内容と大学で学んだことの関係

現在は、水栓（蛇口）やシャワーヘッドの開発に携わっています。昔から思い描いていた「モノづくり」ができること、そして大学で学んだ金属や樹脂の知識が生かされると考えて入社しました。

実際の業務において、大学での学びが生きていると感じる場面は多々あります。水栓は金属と樹脂の両方を使用し、常に強度や耐久性が課題となるため、機械工学や力学、プラスチックを研究した経験がそのまま生きています。また、学生時代の実験で培ったモノを扱うスキルや、学会発表で鍛えた「論理的に考える力」「伝える力」も、日々の開発業務の確かな土台となっています。

大きなやりがいや、やはり開発した製品がお客様の手に渡り、「いいね」と喜んでいただけたときは、自分がかかっていた製品が世の中に出ていく達成感はもちろん、水栓という身近な製品だからこそ、滞在先のホテルなどで偶然見かけることも多く、そのたびに嬉しい気持ちになります。こうした喜びを味わえるのは、モノづくりに携わる仕事の特権だと感じています。

進学希望者、後輩へのメッセージ

大学での勉強や研究はもちろん大切ですが、「社会で生きていくための土台作り」だと考えてみてはいかがでしょうか。実践的なスキルの多くは、社会に出てからさらに膨大に学ぶことになりますが、だからこそ学生時代に土台を作っておくことが必ず生きてくると思います。

また、学生時代は友達と過ごす時間も存分に大切にしてください。私には今でも定期的に集まっては思い出話に花を咲かせる一生の仲間がいます。大変だった研究室での日々もかけがえない宝物です。今でもたまに先生方を訪ねて近況報告をすると、とても喜んでくださり、それが私自身の嬉しさにもつながっています。

今、具体的な将来像がなくても焦る必要はないと思います。振り返ってみると、私自身、大学選びや就職活動の時期はまだ目標が漠然としていました。「自分の選択肢を広げるため」に進学し、結果的にそこで得られた多くの選択肢があったからこそ、「研究が生かせそう」と納得できる就職先を選ぶことができました。本学は、望めばいくらでも挑戦でき、先生方もサポートしてくれます。大学時代に頑張ったという「自信」が、今の私を支えてくれていると感じます。皆さんの挑戦を心から応援しています。

プラスチックの研究で得た専門知識や学会発表の経験など、すべての学びが現在のキャリアに直結している。